

市町村：東根市

タイトル：高品質ももづくりに向けて ～力を合わせて“北限のもも産地”づくり～

氏名(法人名)：東根市農業協同組合 果樹協議会もも部会

1 組織の概要

東根市農業協同組合果樹協議会もも部会は、平成元年に当時の東根、大富、小田島、高崎、長瀬の5農協の合併とともに組織化された。その後、平成13年に若木農協が合併し、部会メンバーは400人を超え、現在に至っている。

技術面では、各種研修会や果樹推進員（優れた技術を持つ生産者から選出した委託指導員）による生産指導、光センサー選果機を利用した最高品質の「横綱印」の出荷や、品評会等を行い品質の高位平準化を図るなど、積極的な取り組みを行い、平成18年には、山形セレクションの認定を取得している。

また、環境に優しい農業にも積極的に取り組んでおり、平成15年から持続性の高い農業生産方式の導入により全員がエコファーマーに認定されている。

2 活動内容

ア 技術向上と普及に向けた組織的な取り組み

当部会では、「川中島白桃」「あかつき」そして東根独自ブランドの「いけだ」を中心に産地化を進めている。技術面では、異常気象が恒常化する中で、いかに品質変動が少なく、食味と日持ちの良いももを生産することを命題とし、果樹推進委員や普及課を招いての年数回の勉強会や、立木品評会を開催し、部員の技術向上を図っている。

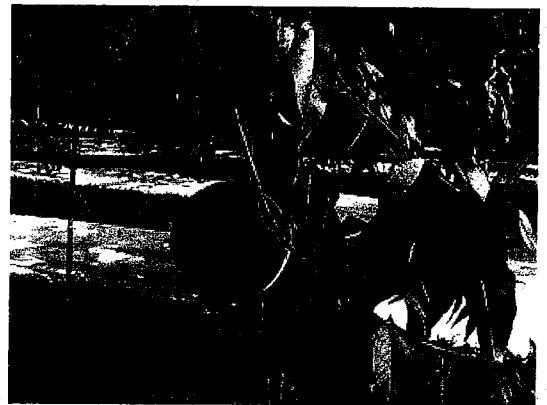
更に、現地試験と実証を行った先進技術についても積極的に導入している。特に、通気性のある白色の反射資材を用い、着色、糖度を向上させる技術を導入している園地が増えてきており、高品質化に大きな役割を果たしている。

イ 光センサーによる高品質果実の出荷とブランド化

光センサー選果機により、食味を重視した果実を販売し、市場、消費者の信頼を得るとともに、糖度15%以上を満たした「横綱印」品の出荷を行うなど高品質果実の出荷を行い、有利販売に結びつけている。また、山形セレクションについても、平成18年以降継続して出荷している。

ウ 発生予察に基づく防除と環境にやさしい農業実践

代表園地3箇所にフェロモントラップを設置し、害虫の発生状況を把握し、それらの情報提供を迅速に行うことで適期防除を促すなど、組織的な防除指導に活かしている。また、本年はエコファーマーの更新期を迎え、更なる環境に優しい農業を進めるため、部員全員が再認定を受けている。



東根のブランド品種「いけだ」



光センサー選果機による高品質果実の選果

3 今後の発展方向

果樹の複合経営が中心の東根市では、ももは、早期成園化が図られ、他樹種との労力分散が可能で、施設が不要で初期投資が少ないこと、そして遅場産地として単価も比較的安定していること等から、今後も栽培面積は増加する見込みである。

そのため、団地化を図りながら、引き続き高品質生産を推進し、消費者に信頼される「ももづくり」を心がけ、晩生種を中心とした優良品種を導入するなど、市場や消費者の多様なニーズに対応していく。また、後継者育成を図りながら、地域のモデル的な組織として、更なる産地の発展を目指していく。